湖月抄

巻のしるし

三十三

内閣文庫
和書
八五四四 類號
六〇 冊
二〇三 函
一一一 架

和書門
八五四四 類號
一一六 函
一一二 架
六〇 冊

内閣文庫
8544
番號 和
冊數 60 (39)
函號 203 31

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫圖書之印
東京帝國大學

明治十年購求

国立公文書館
National Archives of Japan

藤裏葉　細　巻名　以詞号也　源氏九条三月十二日ものがたり

花　源氏九条三月十二日ものがたり

梅がえの同年のもの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のもとにもてゆきて雲井殿へ、[illegible]人々参りて、[illegible]
[illegible]思ふ[illegible]て雲井へ[illegible]人のもとの[illegible]

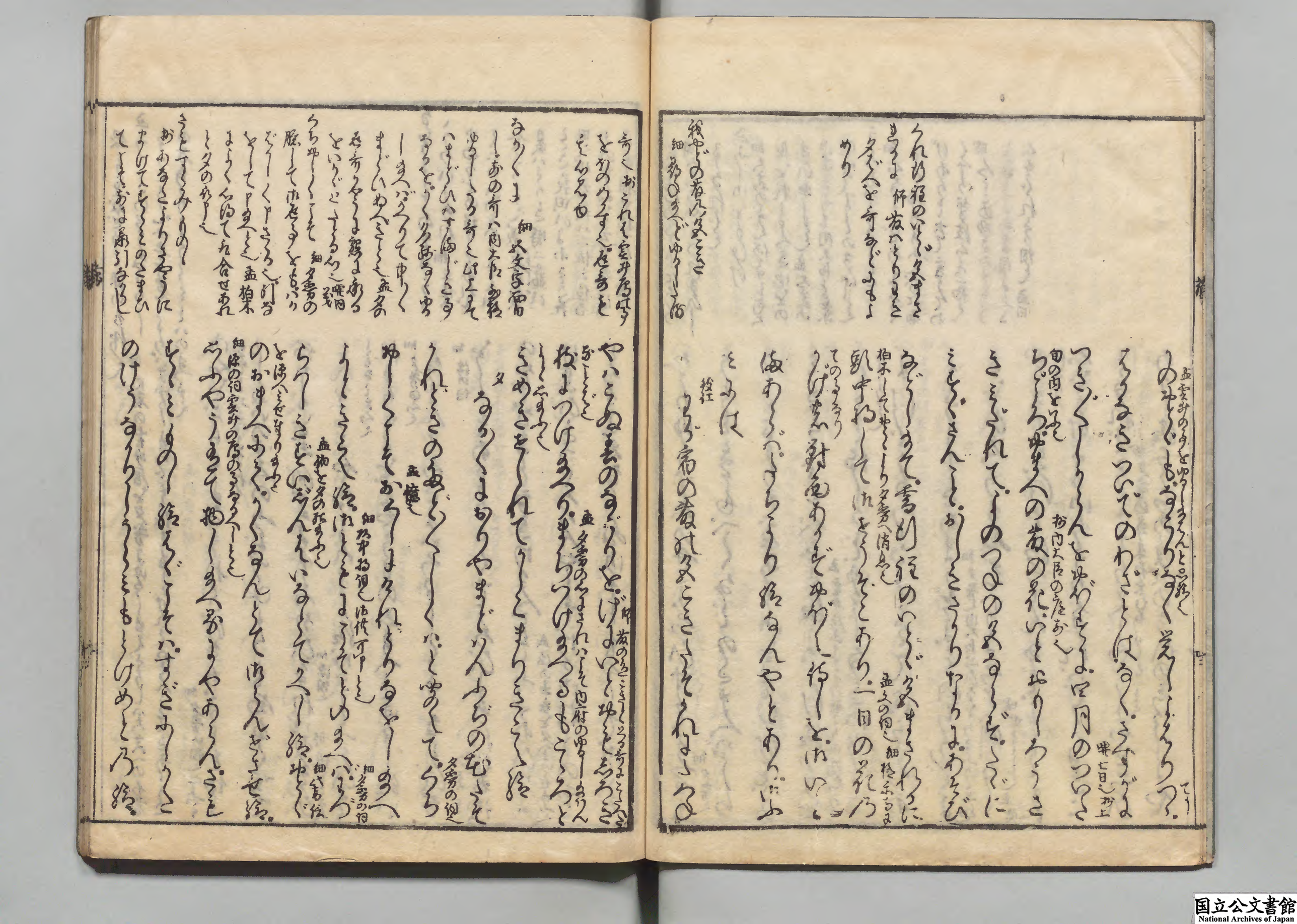
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文籍ハ史記ヲ云ヘリ　高祖紀云六年高祖五日一朝太公如家人父子礼太公家令説太公曰天無二日土無二王今高祖雖子人主也太公雖父人臣也高祖家礼云云ハ此の文をうやまふて他人なれど

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひろさきよ　細　玉井屋のまを初めすべり。女と業よりそうり。仏より
咲くすと仏よりをとくといいつり。仏と仏よりをとくとつり。紙むすあの数をぬみうて
紙仏よ行ひろくく　おうぐしはうくん。玉井屋よゆづくんくそるくこうすくこの
ありんを行つるよ。さもるうりしく。然ハ仏中よりをるぐ〳〵。雲井屋とすりそうろう〳〵
いまれよ少りて根ともものくこうぐしくく　およ誦一ようる前も見しこうて紙も れさんと
のふんよのまつり。仏前をもんよりるつり　花天盃を行てい海よりてあ章すくこ。是ハをーきづ
くこうりくの一生行　是ハをもんを仏前ハ男赤礼とあしくくすくく

業ろう　細　あまくこの主
をもつくくく。花の紙をく　盃タ方
とハ今日のうくく。紙宣行　いくうりう寝けさ云をとをつくくて花
よりくくうり咲ろうむと　のひもくかりよあつくん。頭中ねよ盃をへい
をつつあるひつくくと云　　盃をこ
にあつくんのくし　ハ婦人日本紀　　盃
くくやめの神　　盃タ方
手弱女人日　幼婦　万葉　　ひとくくや久めもまくくんづきくよこれ
細　花も宝井屋よりひくく　　もむしるうる仏　そひのまづれり
へてくうり。あ夕舎あよ雲　　くくづくくくそこれちりまくくそ。七
井屋の蔵先もちまく　ん　　日の夕月夜ろうけ海のうるうり。池のうづく
とのもと　投し　　流　　誦
とんくうり　花　巡流　細　ちん
ぢるくくとくくまくと。く
盃花名ハ順ハ海ハ誦と

ろう順とつ月く　　仏
これよりまくくん　　
七日の夕月夜　細　日月七日の也宝井屋くくくくくく　　
　　
　　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
孟人も女の
孟人受事よんどころ
なくなのうく 源氏物語
[illegible]

[illegible]
お女房とおぼしてお
ぐすきんたちの
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

て、ハ[illegible]おん花色
[illegible]のあやとあり。師
説の本ニハ白きあやとあり
て、そのあやイ本とあり。
めり。下ゑ染として又白きあ
やとあり不審なし。曼荼羅
説云下ゑ染ハ[illegible]
白き綾ハ[illegible]

細説ニ説くさ
[illegible]。三光寺花園史ニも仁明天
和七年四月八日請傳灯
大法師位静安於清涼
殿始行灌仏事ノ初者
[illegible]
云ハ推古天皇[illegible]
[illegible]灌仏して内裏并
[illegible]
[illegible]
[illegible]

六条院の御いそぎ九月の
花の宴の日の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひるさんとうのひてら
ひくひあるとこ
ろべてて定めるさ世元
だとそ仕るもちふまそ
いろろろろの世を
場業 彼れ自石業上乃
此まのあるさ風とスふ
よつけくもを盛衰
定めるさ世元だ源氏
ト只とこれんのちくなる
世よ世ありさるも
ちろよりせてこそ海
ありれと源氏の枝よ
のろうのえんさ孫のるれ
ふよをろろろ人世の
ひくひとろ人とれ世いと
ふくにもえーのうね
らを第上よりるふ
しそて第上も只とのに
嫡孫にすせて佐ちき
るちるふるの流り
ちをアるふ源氏ちーるた
血上をアるし源の桓武
へちりるれい源の第の

ばりへいてとそ表るれをぐくつとぐめ
るさ世るれば元そ仕るもちふまそて
いけるぐりの世をすぐさあり元れど
業の
のるり源ろん寸忘の世るどのるろへる
さ外ろへるぐそへひるぐるろれば
此此源信八第上の桓武よ源のかりてそ
ろろちへまて上を第るどもれさ
じさよ系りつぐひまれ元そるさよ出
細源の枝に桓武
伯未し
のるね近系ぐるさの後に第中ねるりるの
内大臣の亭
大夜して出よ
細惟光の娘夕霧の
るるるるの
ぐるるるるる
源氏の天下をまく仕るよ世元れ八惟光ふ
内義ぐ
ぬるるる
家後ぬぐ
とちもれるふるひとと所を

撰政ろう被出撰政へ出るるるり
近衛つる の後い 元宴の桜宴日桜の後 近衛づるとるるるぐるるるる東を寄らるる
ろ第人階従八近系づるの後官ろよりて出ぐるの
儀式ろるるる 唐 近比ぜでも近系後八伯ぐ出ぐ中ねる代ぐぐり東をぐるるて
あるま桜ひと具るるるるり
ろれ不ろり 仰 摂政ひ中ねりて系の後るれぐ内大臣の亭ぐり出ぐ元れは上を
アおりてそれろるぐれ源の出撰政へまりまて

初夕霧
夕霧文そる
ちくるるるる

そなはりて、師匠の
しはあるものとをざる
ものとをやとりかた
ぶかりさうらん
そうしても　細そうさ
よりそうくそうそうけ
ものくさ　夕雲の及第の
人をれいなり　師匠の
ものかりてもくた
どくくとらふも養を
ぬすんでくるあるの師
よりもしかは桂をかり
夕雲にて知るべし
又養孫ものりと文
章生にてあるべきよ
くに所謂書　都読日臣
對東為天下　第一稲桂
林一枝　崑山片玉　今受
課試及第之事　也用
也拾遺雑上　菅原大臣
うりしかるに　母
のくにかるに久賀の月
の孫もあるか　東の風

くさあるそしり　細さんかぐ
うんいくに　師匠の
　　夕雲の
うぐ
をあるうん　細佳の
師匠なり　師匠なり
ものくさ　夕雲の
かをるに　この内侍
ひのぐ　細夕雲の
うあるひ　細夕雲の
こをやそ　細夕雲の
ものくて　細夕雲の
人もと　細夕雲の
ものも　細夕雲の

ものくんとそれなりんもあいな
しとも　孟嘗の法の
えよりあるいとあるえるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

それよりけうとくもあらぬ
孟小伝より
石上のそひまをそねむ
人は疑よりひるせど
上のそらさのうつり
ぐひるさまうつて疑
よりひるとてもけう
ぐるもあるべしと
の白よりくらう
屏上人くもりしき
いくくあるて
是業 ゆえ上のそらぐのあ
らもうりさゆへ屏上人
ぐるも此姫君のれうを
亂像のいくくあるて作
ふ人くふもんをけう
どくとくとく
くうくくそさくくそれ
も ゆえの御ぐ第上のう
ちくけもふとて心をゆ
くくくくそれうる
くうくあるべくくう
ね ゆえ上のあうるあと

るどすれどそれよりけうとくもあらぬ
そくうゆえ上の作をとりそうくそうぐあるとう
いまありくくるくびるくくくくとびくくくみも
いくぐず。そくろよくくうあうはげくくひとつ
るくくくよりひくくもあくくゆくくもそる
くくくそれど屏どくくくもゆづくくさい
屏上人くくくもゆくくくく

太上天皇よりゆづりまうされし位　細元亨の年号の位よりつきのこる帝の位をさうりのうへ給へり　いまさらに太上天皇聖号をくだし給へる人の院号あり　二条院の教明敦仁と号せし　かゝる例なきなり　但太上天皇を号せ奉りしは　後円融院　応永十年　爵封戸をゆるし給ふ　太上天皇にゆるされしは　是よりはじめ給ふ　落葉集　并　六条院の出

よくるやうにさだまりぬ　事和の御しるべ
ぞ　これとうぐいようにうめさうらぐ
ぞ　ゆうゆうゆくゆくとよそ　ちよるう
ぐれぐれ　のくしをゆりけりうそ
じめをりて　ゆくさるう世のいそぎたち
その状を　太上天皇よりゆづりまうされ給へ給
くくふくくいとつくさくくゆりゆづりまうされ
そい給　細年号を爵　源氏物語　源氏ぐすりも世のれんよりるるぬこと
るけまじ　すべかりつゆ　青の例を
あくくめで　院中の義式　いつ　細ろくくろ
のくく　今きはるうの義式も厳重ろくくし　細ろくくろ
くくなりそひくまへ　関よまつりのへさ　孟冷泉院
くくくさそぞりはゆゆりろくくて　の法ろくし

事よはゆ　太上天皇にゆづりまうされし　院号の院号　法皇の法号の院号　法皇の法号の院号　天皇位封ハ法令よりゆゆ　爵封ハ二千戸のゆ　太上天皇の院号　太上天皇の院号　太上天皇の院号

わきみどり　細　淺ことり
いろ位とかくこゝさ紫と
三位と紅梅の袿を五重
花はなやかに淺ことりとよ
うるはし位の衣の色之六
位ゆかりの緑なり
又二位と位八淺紫なり
とこゝさ紫とかりの八位
の袍の色なるべきの奇
なるにいと大概とえて
のゆくこと上麿明の冬
後中納言よりの四九条

[illegible]
おなじ
[illegible]
おなじ
[illegible]
おなじ

国立公文書館
National Archives of Japan

このあるの山　仲上の二首
哀傷の部うたいづくしの
くーてとしのつあ

そのくさの　細くしとしみ
してしこの弱ひつれと
くく奇と結ふくかれ
人くらの歌人くして富
いあまくしくれくさ
ほ古のふくくこ公のい
くいつくえ　秋い
こけけくくよくろ　金
いつれくくかけくく
物夕書　物語宮ゆ丁と
もくのむくくなこくく
ほくどんくくをみん
くくをつく
ほ今くもをくくのすくよ
ほもくくの内ほくるれを
られバタ書くく書ほ巻

仲くびくくくもくくくしいづありつるは
細おのをくのかかをくくく

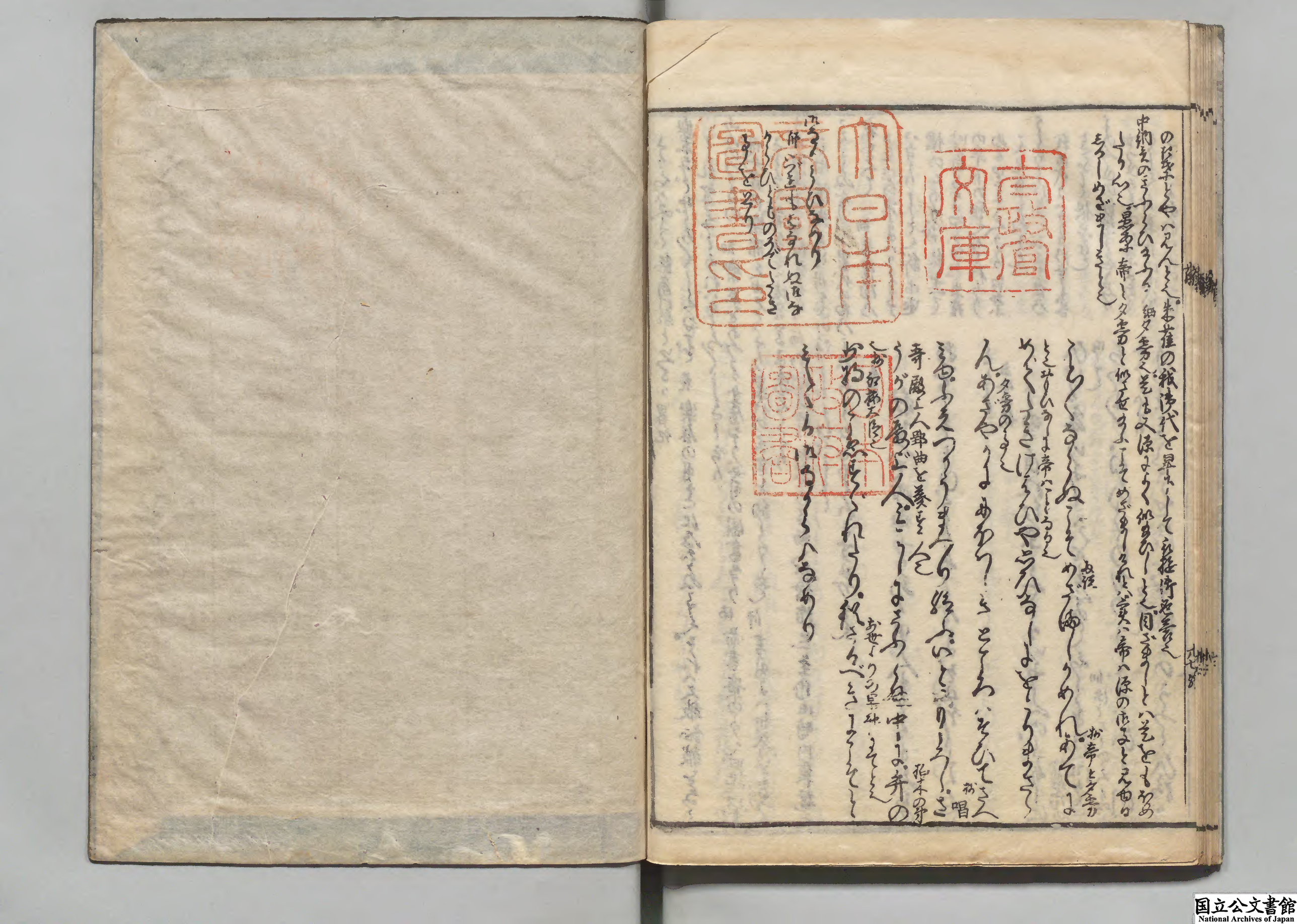
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]見花者一之巻に[illegible]捕鳥奏[illegible]潜下事延喜廿年十月十八日撰中納言藤
原朝臣[illegible]小鳥花[illegible]枝[illegible]階前奏之[illegible]紀末氏有進御贄
者一つづゝとたのもしけうけて　あたのもしけうけ　同此作法[illegible]
[illegible]又猪[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



国立公文書館
National Archives of Japan